

令和3年度 第1回ルール・ガイド制度検討部会 議事録

日時： 令和3年7月7日 午後4時00分～午後4時45分

会場： 父島 村役場 A 会議室
母島 村民会館

出席： (以下敬称略)

小笠原村観光協会	原田龍次郎 (部会長)
小笠原母島観光協会	茂木 雄二 梅野 ひろみ
小笠原ホエールウォッチング協会	工藤 志保
小笠原野生生物研究会	金子 隆
小笠原自然文化研究所	佐々木 哲朗
国交省小笠原総合事務所	永井 公彦
環境省小笠原自然保護官事務所	若松 佳紀 (成田氏代理出席)
林野庁小笠原諸島森林生態系保全センター	尾山 真一
東京都小笠原支庁	小川 親吾

事務局 小笠原村産業観光課	大津 源 (事務局長) 柏木 徹 小野寺 将嘉
---------------	-------------------------------

【議事】 (以下敬称略)

1. 陸域ガイド新規講習について

○柏木

新規講習は隔年の開催としており、今年度は実施該当年となっている。現在、母島で1名受講希望者がいると聞いている。新規登録は、東京都自然ガイド講習を受講した上で、エコツーリズム協議会陸域ガイド登録制度オリジナルの講習を受講してもらう必要がある。陸域ガイド新規講習は、島外の講師による小笠原の歴史・気象の講義、ガイドの在り方についての討論形式の講義、また、島内講師による安全管理・ガイド技術・プレゼンテーションの3項目の講義を行っている。過去の講義内容については、資料1を参照してほしい。島内担当講師は、先輩登録ガイドが講義ごとにメイン担当とサブ担当となり、サブ担当が次回講習のメイン担当となり実施している。検討事項として、担

当講師によって講義のスキルが異なってくるものが上げられている。そこで、今年度の講習で過去に講習を担当していただいた方に、改めて講習をお願いし、各講習の必須要素等まとめていただき、指導要領のようなものを作成したいと考えている。今年度担当していただく方は、安全管理が金子さんと竹澤さん、ガイド技術が吉井さんと島田さん、プレゼンテーションが、安全管理とガイド技術から1名ずつを予定している。詳細については、部会長及び担当していただく方々と、適宜相談させていただく。

○原田

指導要領的なものを作成していくことが重要ということで良いか。

○柏木

そのとおり。今後講師を担っていくガイドの心理的ハードルを下げていきたい。場合によっては、講師になるための研修等も検討してもいいかと考えている。この点についても、今後意見をいただきたい。

2. 陸域ガイド更新講習について

○柏木

更新講習は毎年度実施している。平成25年度から更新講習を実施しており、平成25年度、26年度は行政機関からの情報提供および、フィールドでのガイド実習を中心に実施。平成27年度からはガイドの要望等を取り入れながら、水域生物の観察実習、海ゴミについての座学等を実施。平成28年度、29年度については、安全管理およびリスクマネジメントを中心に実施。基本的には、座学とフィールドをセットで行ってきたが、令和元年度については、父島が利用頻度の高いルート上の携帯電話受診状況の確認、母島では、近自然工法の理論学習を実施した。今年度の更新講習についても、ホエールウォッチング協会が受託し、対象ガイドに対してアンケートを行っている。今後、その回答等踏まえて、内容検討を進めていく。講習実施は、12月から1月を予定している。

○原田

アンケートの回答は、どのような内容が届いているか。

○柏木

父島からは安全管理や昆虫類について、母島からは、苔について意見が出ている。

○原田

なにか面白そうなものはあるか。

○梅野

苔は観光客から人気がある。以前、自然ガイド能力向上講習の講習で来てい

ただいた鶴沢先生にお願いできたらと思っている。もしくは、ZOOM 等で実施してもらってもいいかもしれない。場所としては、桑ノ木山が人数多くてもフィールドとして利用しやすい。

○小川

更新講習は2年に1回の実施なのか。

○柏木

毎年実施している。更新対象者じゃなくても、スキルアップのために受講することは可能である。

○小川

毎年受講している人もいるのか。

○柏木

いる。そのため、ガイドのスキルアップのためにも内容を検討していきたい。

○小川

東京都で実施している、能力向上講習と内容が被らないようにしないとけない。

○柏木

確認をとるようにしておく。

3. 協議会ホームページの作成について

○柏木

従前から課題として上げられている、協議会活動についての情報提供に関して、取り組んでいきたいと考えている。目的はエコツーリズム推進に関する活動を、より広くより細かく提供することにより、自然環境保全、観光振興、地域振興・環境教育の3つの基本方針の取り組みを広く知らしめ充実を図っていく。現状は小笠原村 HP 内にエコツーリズムのセクションを設けて、活動等掲載しているが、今回はエコツーリズム協議会単体のホームページを作りたい。。そのメリットとして、サイト検索が容易になること、協議会活動や取り組み実績、エコツアーガイドの情報等情報提供量を増やし、来島者に対しての自然への理解を深めていけると考えている。また、ホームページの充実により、エコツーリズムへの取り組みを対外的にもアピールでき、エコツアー登録ガイドのモチベーション維持・向上にも繋げていきたい。掲載内容は資料（案）のとおりを想定しているが、他意見等あれば、適宜聞いていきたい。制作費用は、20万円から25万円程度を想定し、保守費用として年額15万円程度を見込んでいる。可能であれば、令和3年度の予算内で対応したいと考えている。制作に関しては、小規模なWGを組織し進めていきたいと思っている。経過等については、適宜報告させていただくが、年度内の完成

を目標に速やかに進めていきたい。令和4年度予算で実施の場合は、上半期中に完成させたいと思う。

○大津

WGの具体的な人選は想定しているのか。

○柏木

具体的にはまだ考えていないが、Webに明るい方等にご意見いただければと思う。

○大津

各所属で得意な方や興味がある方等いれば、ご紹介いただければと思う。

4. SIC・溺者救助訓練講習について

○柏木

毎年度、エコツーリズム協議会の海域課題解決事業ということで実施している。昨年度は3名受講者がおり、3名が認定された。新規の方がいない場合も、既取得者向けにフォローアップ講習を予定している。また、事業者スタッフ向けに溺者救助訓練講習も併せて予定している。本講習は2年程前から実施しており、毎年10名程度が受講している。基本的な救命スキルの見直し、沖に出たの救命実習等行っている。今年度は11月上旬から中旬にかけて予定しており、SICは入港期間中の3日間、溺者救助訓練講習は出港中に1日10名、最大2日で20名までの受講を想定している。

○小川

村の主催なのか。

○柏木

エコツーリズム協議会が主催。エコツーリズム協議会の分担金を財源としているが、分担金を出しているのは、実質、村だけである。協議会で負担しているのは講師の渡航費および滞在費のみで、受講料に関しては受講者の自己負担となる。

5. 小笠原ルールブック改定について

○柏木

現状は平成27年度版が最新となり、スマートフォン等モバイル機器でもデジタル版で閲覧可能としている。発行から6年が経過したことを踏まえ更新を予定しており、具体的には「ペット条例」の新設と、令和2年8月に「ドルフィンウォッチングスイム」に変更があったと聞いているので、該当箇所を更新を想定している。また、以前、海面利用協議会で観光客のイセエビ捕獲等が問題となっており、その辺りの事項についても漁協と相談しながら進

めていこうと考えている。今後、改正点等について相談させていただく。

○小川

改定までのスケジュールを教えてください。

○柏木

今年度内に、新設・更新項目等の整理を行い、次年度中頃に発行したいと考えている。

○小川

既存ガイドブックの生データはあるのか。

○柏木

データはイラストレータで作成している。

○小川

文章・図面等訂正したい場合は、紙媒体で提出するのか。

○柏木

そのとおり。ページデザインはデザイナーに依頼しており、図面等差し替えが必要な場合は、データで提供していただきたい。

○小川

訂正等について事務局から依頼がくるのか。

○柏木

訂正等について情報があれば、事前に教えていただきたい。前回更新の際、だいぶ精査はしている。

○大津

ドローンについて、掲載しないのか。

○原田

(ドローンの運用については) まだ検討段階。

○柏木

ページ数的に難しい。ルールブックは村民や来島する方全体を対象としての情報提供を前提としていることもあるので、利用者が限られるドローンについては別途考えた方がよいのではないかと考えている。

○原田

ルールブックは小さい媒体のため、掲載内容を精査する必要があり、全ての項目は掲載できない。

○柏木

(ルールブックの発行には) コストもかかるため、簡易版の作成も想定している。ページを増やすとなると、紙面の都合上4ページ増となる。「ペット条例」で2ページ使用し2ページ余るので、コラム的なものを掲載してもいいかなと考えている。これについては、母島含めご意見をいただきたい。

6. その他

○佐々木

全体構想の見直しについて、進捗状況等伺いたい。

○柏木

全体構想部会をベースに、今年度中に着手したいと考えている。

○柏木

他にないので、本日の作業部会は終了とする。